



暮らしやすい制度

暮らし
(life)

■ 結婚定住したら、20万円支給！（1夫婦につき）

夫・妻の双方もしくは一方が婚姻届の受理日において、本村に1年以上居住（住民登録）し、かつ、生活の根拠を有したものに限ります。

■ 新生児1人につき、10万円～支給！

本村に1年以上（第1子は3ヶ月以上）住所と生活の根拠を有する父母より生まれ、生後1ヶ月を経た新生児1人につき第1子10万円、第2子30万円、第3子以上50万円を支給します。

■ 満1歳～満18歳までに、毎年10万円を支給！

子どもの主たる扶養者が1年以上本村に居住し、かつ、本村に生活の根拠を有する1歳～満18歳までの子どもに対し、毎年10万円を支給します。
また、小学校入学・中学校卒業時にも各10万円を支給します。

■ 入湯料、半額以下！

「上北山温泉薬師湯」と「小処温泉」のいずれも対象になります。
長寿（村民で70歳以上）の方は100円。（長寿券提示が必要）
一律 大人250円
小人150円

■ インターネット回線を整備しています

こまどりケーブル（KCN関連会社）によるインターネット回線が整備されています。
住宅への引き込みは有料です。（下り最大1～160Mbps）

■ 住宅の新築、購入、改修に対する補助

55歳未満の方に対し、自ら10年以上居住する目的で、村内で新築（建替え）された方へ最大300万円（補助対象経費の20%）、
中古住宅を購入された方へ最大150万円（補助対象経費の50%）、
中古住宅購入に伴う住宅の改修をする方へ最大150万円（補助対象経費の50%）
を支給します。（その他条件あり）

■ 家賃の一部を助成！

55歳未満で本村に住所を有し、村営住宅等又は民間住宅に入居している者に対し、家賃の月額から住宅手当の額を控除した額の2分の1の額（1,000円未満の端数は切り捨て、助成額が50,000円を超えるときは50,000円とする）を助成。



暮らしやすい制度

保健 (health) ・ 福祉 (welfare)

■ ガン検診無料

大腸・胃(バリウム)・乳(隔年)・子宮頸ガン、全て無料で受けることができます。
但し、年齢要件や期間制限があります。

■ 0歳～中学3年生まで、医療費500円を超えるものは全額助成

医療機関500円・14日以上入院は1000円を超えるものについては全額助成。
(医療期間指定なし)

■ 一般不妊治療・不育治療費助成

医療機関で受けた一般不妊治療および不育治療に対し、一年度中、一組当たり
上限10万円を助成します。(但し、5年間に限り)

■ 生後一か月健診費用助成

医療機関で受けた生後一か月健診に係る費用を全額助成します。



暮らしやすい制度

教育 (education)

■ 通常保育料、無料。

■ 保・小・中学校において、給食費無料。

■ 保・小中一貫教育を実施しています。

■ A L T、1名常駐。

A L T（日本人教師の助手として、生きた英語を子どもたちに伝える外国人）を、12名の児童生徒に対して1名常駐しています（平成29年7月現在）

■ すこやか推進委員会

上北山村から通える距離に高校が無いので、子どもたちは15歳で家を出ることになります。早くに自立しなければいけない子どもたちを陰で支えようとしている地域の大人たち、その名も「すこやか推進委員会」です。
他市町村と比べても、13年以上続いている村は珍しいそうです。
主に、性教育や防犯などについての授業を組んでいます。

■ 【保・小中一貫構想図】

<幼児期 1～5歳> いきいきと表現

指導の重点◎みんなと元気にあそぶ

<前期 小1～4> 自分の良さに気づく

指導の重点◎集団活動体験の充実

教育活動を体全体で体験する

<中期 小5～中1> 自分の可能性を追求する

指導の重点◎交流活動の充実

集団の中で自己を鍛え、積極的に自己表現する

<後期 中2～3> これからの生き方を探る

指導の重点◎自己表現を目指す

少人数の良さを活かした進路指導（進学指導）

少子高齢化が加速している本村ですが、自然豊かで、すばらしい山、川、歴史の中で生活しています。

幼児・児童・生徒から高齢者にいたるまで、心豊かで優しく、温もりのある村です。

近年の幼児・児童・生徒の減少を踏まえ、より良い教育環境を求めて、

26年度より保・小中一体型の一貫教育がスタートしました。

学校教育の特色としては、「教育は次代の担い手を育む学校・家庭・地域の協働の営み」として捉え、学校運営協議会を中心に、常に新しい教育の創造に努めています。

■ 地域の人との関わり（地域行事、村民大運動会 etc…）により豊かな情緒が育まれます。

上北山村の子どもは純粹で素直です。各区の春秋まつり、盆踊り、虫送りや八日薬師（伝統行事）、村民大運動会等、地域のイベントの度に子どもたちもお手伝いや主役を務めることが多々。

ごく自然に幅広い世代の方たちと交流することで、コミュニケーション力や感性が磨かれます。

また、教育委員会主催の「森の学校」では、大自然の清流の中、

地域のお兄さんやお姉さんに釣りや野外料理、野宿の仕方を教えてもらい、生きる力を学びます。

サバイバルをしているときの子どもたちの目は輝き、表情は真剣そのものです。

都会で大人数の中だけでは学ぶことのない、五感で感じる教育を受け、

豊かな情緒を育んでいます。